

2014年ジャナリツ偵察報告

11月19日

偵察隊 居谷千春

気圧は安定している。本日は快晴でたいへん冷え込んでいる。スパでの朝食は「かゆ」、たいへんうまい。本日の予定は高度順化のため沙子崗附近 G-109 の南の山の登山。メンバーは日本人3名と牛さん。連絡官と徳庆欧珠、宋紅は BC 建設予定の朗多果附近へのアプローチとキャンプ最適地の偵察。唐木君は高山病からくる頭痛からサブザックがないからか、「あれがない、これがない」と不機嫌で、メインのザックにかなり大量の荷物を詰めたまま出発。大丈夫だろうか心配になる。こちらは昨晚飲んだ薬のお蔭か夜中に2時間毎に小用があり、その結果比較的回復したみたいだ。松村君は順調のようである。10:15 出発。

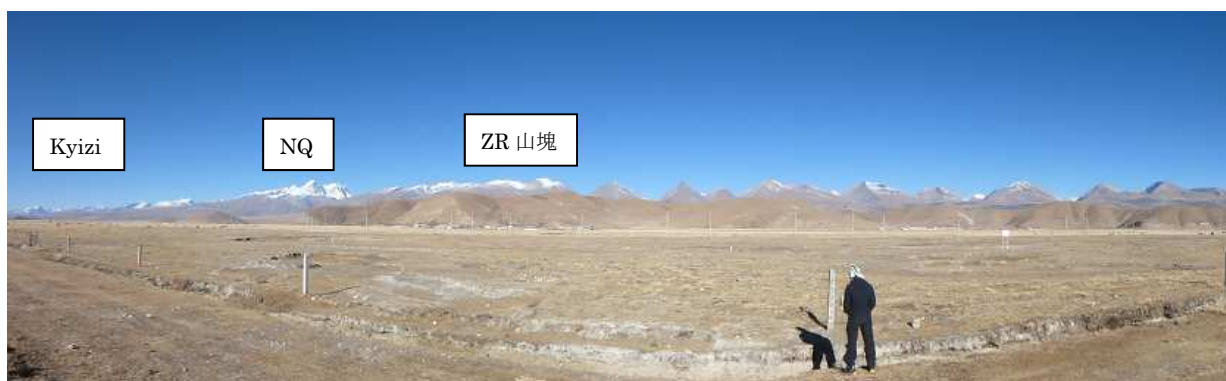


スパの出口



G109を沙子崗村(羊八井方面)へ戻る所で車が故障

早朝の冷え込みで、日産ワゴンの冷却水が凍りエンジンが不調、回復に結構時間がかかる。11:25 唐木君のコンディションは出発時点と変わらず非常に悪い。牛さん、ドライバーのパサンが病院に行くべきであるとのアドバイスあり、唐木君は 11:25 トレーニングは諦めパサンとともに当雄の診療所に向かった。



すぐ青蔵線をくぐり（動物や自動車が入り込んでいける高架下がある間隔で配置されている）南側に入りこみ目標の山を探す。さて当初の高所順化トレの対象として画策した山は、比較的大きい谷筋が南東から流れ込んでいる谷際の山で、扎那日字の頂上がB稜C稜の間から見えるのではないかと踏んだところだった。グーグルマップで森格、郎果という部落名があるところ（G-109南）である。ある家のところから、道が切れてこれ以上西に行けないということで、目標の山のひとつ手前の山をトライすることにする。ヤクが広い谷一面で草を食っており登りやすそうだ。チベット服姿の少年とその母親、老人が出てくる。少年は中国語を話すことができ、老人は村長だという。またここはなんという名前かと聞くと「ニンツォンシャン」との答えだ。村の名前がないのだろうか。

グーグルマップによると护扎果巴 Kuò zhā guǒ bā とか、霍如瓦促郎 Huò rú wǎ cù láng とか書いてあるが、その他の場所の整合性から正しいかどうかわからない。牛さん、松村君とともに 11:55 出発。



トレーニング山の麓



少年によるとハンガーという名前があるようだ。写真右端の尾根を登るとP1、左に広い尾根沿いに登るとP2、更に奥にP3、主峰がある。

短い草が苔のように張り付いている山は登りやすい。13:00、早々に到着している松村君がP1から写真を撮っているところに、ヒーヒーいいながら到着(約4400m)。南西端はKyizi(キーツ)から、北東端は桑丹岗桑 Sāng dān gāng sāng (Samdain Kangsang 6590m) だろうか、雄大な山脈が眺められる。美しい山脈とともに河廊というべきか、細長い河岸平野が直線的に伸びている様に心うたれる。河廊に半島のように出っ張る丘や島、そして点在する部落の配置がよくわかる。早速パノラマ写真をとるが北西方面から雲が出始める。P3頂には建造物のようなものが見えたが望遠で覗くと、やはりタルチョの張り巡らせた柱であった。13:20頃P1を出発する。ヤクは尾根筋でもゆうゆうと草を食べているが近付くと左右に退く。思ったより早く15分程でP2に着く(約4500m)。松村君は既にP3に向かっている。14:10(GPS4670m)P3着、もう主稜の最高点かと思ったが、まだかなり先があった。とりあえずここまでとする。



図1

高度がここまで上がってもジャナリツ山群であらたな発見はあまりない。ジャナリツより北西に並ぶ各谷の源頭に聳える山が望遠レンズでは、かなりはっきり見える。私はジャナリツ山群のABCDE稜の右の稜をT、U、W、X、Y、Z、 α 、 β 、 γ 稜(山塊)と仮によんでいるが、早く現実の名前で話をしたいものだ。当面、ジャナリツより西側は、登子曲布 Dēng zǐ qū bù (Tunzi Qubu; TQ)、念青唐古拉 Niàn qīng táng gǔ lā (NQ)、Pajan Zhari (PZ)、Chaggar

Kangri (CK)

更に西、XoiXupu、Bada Ri の領域、Kyizi の領域、その間の特徴的領域などは別途呼称を定めたい。



P2 から P3 へ (P490)



P3 から 1 時間程登れば、主稜に出る (P500)。右奥は約 5600m の奇号扎日 Qí niào zhā rì



P2 から、左 (北西) の Kyizi から北のジャンナリツ



北東方面、河廊が狭まる手前がニンチョン中心、狭まった向こう側がダムシオン (当雄)



P 504

YZ間、Zα間に魅力的な奥山がある。更に視界の右奥に桑丹崗桑 sāng dān gāng sāng とされる美しい雪山が望まれる。雲が広がり、ぐっと寒くなってきたので 15:00 三々五々写真をとりながら下山開始、牛さんは旋回するハゲワシを狙っている。登山前見送ってくれた少年に迎えられジープの到着を待った。今回登った丘は、少年 (ディンドゥー君) によると「ハンガー」というらしい。16:30 頃ジープが来てスパへ帰る。唐木君はまだ苦しそうであった。



桑丹崗桑 (Sāng dān gāng sāng; Samdain Kangsang) とされる

以上